

2016年9月もんじゅ廃炉が決まりました。この決定は日本を原発ゼロの未来へ大きく舵を切りました。**もんじゅ**は**核燃サイクルの要**です。もんじゅがなくなれば日本中の原発はストップするしかありません。原発は燃料にウランを使い、ウランは石油より埋蔵量が少なく60年でなくなります。この問題を解決するために燃料を燃やしながら増やす高速増殖炉が考えられました。高速増殖炉を使えば燃料は1000年使えると言われました。しかし増殖炉は技術的に実現できず終わりました。

政府はもんじゅ（高速増殖炉）廃炉決定と同時に新規高速炉開発と核燃サイクルの維持を宣伝しています。

◎核燃サイクルなど存在しません

今までに日本で核燃サイクルが実現したことはありません。政府の核燃サイクル維持宣言は、これからも核燃サイクルという空想話で原子カムラが大金を浪費し続ける宣言ともとれます。もんじゅで1兆円のお金をドブ捨てした責任も取らず、原子力推進詐欺師たちは、どこまで私たちに負担と迷惑をかけるのでしょうか

高速炉は発電所ではなく核爆弾製造所です。

◎高速炉と高速増殖炉の違い！

もんじゅ（高速増殖炉）と常陽（高速炉）では決定的な違いがあります。もんじゅは発電所で常陽は核爆弾製造所です、常陽は電気を1Wも発電せず、核爆弾に使うプルトニウムを作る原子炉です。高速炉は歴史的に核爆弾製造のために作られてきた軍事施設です。従ってそこに使う予算は本来、防衛費から支出しなければなりません。では現在、日本の防衛費5兆円から高速炉開発に1兆円のお金を使えるでしょうか？無理でしょう。

高速増殖炉は「増殖」を捨て、「発電」も捨て、「高速炉」になった時、電気代からの集金は不可能になります。電気を作り出さない高速炉（軍事施設）製造費用をどうして市民が電気代で負担しなければならないのでしょうか。もんじゅは再稼働費用に5000億円かかるのが廃炉の理由になりました。もんじゅは廃炉するにも3000億円以上かかり、今後、新規高速炉開発には、廃炉費用＋新規開発費用が必要です、5000億円出せない国がそんな1兆円以上の費用を出して高速炉開発を出来るのでしょうか？。電気を1Wも発電しない高速炉ともんじゅ廃炉費用を電気代に上乗せして集めますか？？福島の廃炉費用もどんどん電気代へ上乗せして集金されます。原子カムラの実現不可能大ボラ計画失敗のつけ回しのために、日本の電気代はどんどん上がっています。

もんじゅ廃炉で原発ゼロへ切り替えるしかなくなった国が予算的裏付けもなく苦し紛れにいつてるのが、新規高速炉開発や核燃サイクル維持という空想話です。

◎原子力発電には軽水炉があり「高速炉」は必要ありません。

原発としては水を使った「軽水炉」の方が優秀でコストも安く、ナトリウムを使った危険で高価な「高速炉」の出番はありません。高速炉は発電設備として軽水炉に変わることはできません。

◎フランスの高速炉計画 ASTRID（アストリッド）も頓挫します。

フランスはスーパーフェニックスの廃炉で高速増殖炉計画から撤退し、現在その廃炉作業が難航しています。新規に高速炉を作るというアストリッド計画も当初予定からすでに大幅に遅れ2019年に計画をまとめて発表すると言っていますが、その前提にもんじゅを使った材料試験などがありました、もんじゅ廃炉によってこれらの試験は不可能になり、計画そのものが風前の灯火になっています。最初からこの計画はもんじゅを使うことを前提に進めてきたので、もんじゅ廃炉とともに消え去る運命です。

◎核のゴミ再処理撤退からワンスルー直接処分へ

六ヶ所村の再処理工場はプルトニウムを廃棄物から取り出す工場ですが、もんじゅ廃炉によってプルトニウムを燃料に使う原発の実現見通しはなくなり、プルトニウムは作れば作るほど核不拡散条約加盟国に疑惑を持たれる厄介者になりました。プルトニウムを減らすため燃料価格がウランの10倍以上高いMOX燃料を作り、軽水炉原発を壊す危険を冒してまで減らす努力をしているありさまです。電気代を下げ消費者のことを考えるならこんなバカ高いMOX燃料など使えません。高くても減らさなければ外国から条約違反警告を受けるので無理にMOXを使っているのが現実です。

プルトニウムを新たに作り出し増やすのは百害あって一理もありません。

六ヶ所村再処理工場はもんじゅと同じく完成時期が何度も延期され、トラブルが続出し、工場からトリウムをまき散らしている放射能汚染の元です、プルトニウムを作る工場は不要です、即時閉鎖すべきです。

もんじゅ廃炉で日本は原発ゼロの未来へ舵を切りました。政府や原子カムラの垂れ流すウソ宣伝に惑わされず、確信を持って原発ゼロの未来を1日でも早く実現するため行動しましょう。